



特集

地域と繋がる福祉作業所 就労継続事業



どんぐりころころ
(すぎな愛育園)

トピック

再犯防止は目的ではなく 支援の結果

先日、日本社会福祉士会主催の司法福祉全国実践研究集会に参加してきました。

テーマは「再犯の防止等の推進に関する法律」と社会福祉士の役割でした。

この法律は平成28年12月に制定されました。政府は今年度に第7条の再犯防止推進計画に添って、計画を閣議決定して進めることにしています。現在、再犯防止推進計画等検討会で検討が進められているところです。その中で、保健医療・福祉サービスの利用促進が検討テーマの一つとなっています。

当法人は罪を犯した障害者等の支援をしています。特別なことではなく、生きにくさを抱えた人への支援の一環です。再犯防止と言う言葉にとらわれず、再犯防止は目標ではなく、支援の結果だと認識する必要があると思っています。育ってきた状況を知り、本人を理解したうえで、本人の希望、住まい、職業等の環境への支援があることにより、結果的に再犯がなくなるのであって、再犯をしないように常時、留意することではないということです。

研修に参加して、罪を犯した障害者だけではなく、支援するすべての人たちに、医療、行政、教育、司法等の専門職や地域の方々が連携した支援が出来るように、福祉が連携の中心にならなければいけないと再認識しました。

特集

地域と繋がる福祉作業所

就労継続事業

武蔵野会の各地域にはそれぞれ、就労継続事業に取り組んでいる事業所があります。就労支援は特に、地域との関わりなくしてはできない事業です。思い切った新しい視点での自主生産品制作や利用者の働き方改革、ワークビレッジ

ジの思想など、新たな発想が大きく利用者が働く場や働き方を変えつつあります。今回の特集では武蔵野会の中の就労支援事業所を取り上げ、それぞれの事業所の関わりを報告いたします。

世田福は繋がりの手箱

世田谷区立世田谷福祉作業所

世田谷福祉作業所にとって、近隣にある商店会『MISHUKU R420』との関わりは、とても重要なものになっています。

就労支援としてのつながりは、同商店会が2009年に発足する少し前、現商店会長が当時勤めていた職場から、大量のイベントチラシに訂正シールを貼る作業を受託したのがはじまりです。

そこから、商店会長がオープンしたハンカチ店で取り扱うショップカードや包装紙の製作作業の受託を経て、このハンカチ店で扱う製品やデパート等へ卸す商品へのタグシール貼り作業などを受託して

いるほか、商店会が中心に開催し、今や全国規模となったパンイベント『世田谷パン祭り』へ出店の機会を戴いたり、世田谷パン祭りの広報作業（ポステイング等）を受託するまでのつながりとなりました。徒歩圏内という立地から、作業の受託だけでなく、社会参加機会の一環としての納品など、施設のさまざまな活動にご理解とご協力をいただいています。ある利用者は現在、公共交通機関を利用して一人で納品へ行くようになりました。リスクもつきものかもしれませんが、ちよつとした危険やミスから学ぶことの大切さも、利用者にも職員にも時には必要な経験です。他の繋がりでは、自主生産品の製造・販売活動において、地域デザインブランド『futacola』との



ただ今納品中

て作戦会議の真つただ中など、「つながり」がもたらす多様なプロジェクトに恵まれています。さて、当施設では、就労継続支援B型事業だけでなく、就労移行支援事業も展開しています。今年度の利用者はB型51名に対して、就労移行支援の利用者は1名ですが、飲食店での実習、一人でバスに乗り大都会・渋谷をめざす経験、職員も見習いたいほどの美しい挨拶の習得など、社会とつながる経験を着実にひろげながら、就職に向けてがんばっています。

ぶんぶんまるしえ

リアン文京

リアン文京就労継続支援事業ワークショップ「ぶんぶんまるしえ」では、「ぶんぶんまるしえ」の事業を実施しています。「ぶんぶんまるしえ」とは区内在住、在勤、在学の高齢者および障害者の方々が作った製品を直接お客様に売ることが出来る新しい販売形態です。管理費として売上の15%がワークショップぶんぶんに入り、残りの85%は出品者に入ります。この事業の最大の意義は高齢者や障害者の方たちが生産者として自ら作ったものを直接市場に供給する場を作ること



商品を薦める「ぶんぶんまるしえ」

で社会との繋がりを持つことが出来るという点です。これまでに出品された方は総勢約15名にのぼります。手作りの子供服や手縫いのポーチ、アクセサリーなど出品内容は多岐にわたります。リアン文京の入所利用者も数名出品されています。就労継続支援B型の利用者の方は出品された商品一つひとつにタグを付けたり、ワゴンに陳列するなど販売に携わる作業に丁寧に取り組んでいます。この「ぶんぶんまるしえ」は「地域をつなぐ」というリアン文京のコンセプトを体現する取り組みでもあります。4階の総合福祉センターを利用された高齢者の方やカフェで食事をした小さなお子様とのお母さん、お昼休みにふらつと立ち寄ったサラリーマン

風の男性などがぶんぶんまるしえのワゴン内にある商品を手に取り、気に入ったものを購入していただくという流れは作り手である高齢者・障害者の方達とお客様をつないでいく「架け橋」そのものです。地域の架け橋という点では、カフェBUNBUNの外部販売のお仕事も欠かせません。カフェで焼き就労継続B型の利用者の方々が袋詰めしたクッキーや、焼き立てパンを携えて今夏は施設のすぐ近くにある跡見学園女子大学へ毎日販売に行きました。跡見学園女子大学は以前から地域のお祭りの出店などにご協力いただいています。今夏は大学の学食が改装となり、学生の皆さんのお昼ごはんとしてパンを販売してほしいという嬉しいお誘いもいただき、利用者の方皆さんも日替わりで販売員として接客に当たり学生の皆さんとの関わりを楽しまれました。この取り組みをもとに、オープンキャンパスの軽食販売にもお誘いいただき、パンやドリンクを販売する機会をいただきました。12月はキッチンカーでの販売がスタートします。おいしいパンやドリンクと利用者の方々の笑顔が「架け橋」となるべく活躍できることを楽しみにしています。

むさしの 武蔵野

福祉人材

福祉の人材確保は難しくなっています。平成28年度の東京都内の福祉分野の有効求人倍率が5.86倍になったとの報道がありました。

福祉分野の採用は、かつては社会の景気動向により変動すると言われていました。景気が悪くなると安定的な福祉分野の求職者が増え、人材が集まりやすい傾向があったのです。実感はありませんが景気が良くなっているようで、全職業の有効求人倍率は平成25年度の0.93から平成28年度は1.74が上がっています。

しかし過去数年のデータを見ると、全職業の有効求人倍率の上がり下がり福祉分野のそれを比較すると、並行して動いていることが分かります。つまり、景気の動向で福祉に人が集まるといふ現象は見られなくなっているのです。さらに、平成16年ごろまでは、全職業と福祉職の差はさほどありませんでしたが、福祉分野の数字が徐々に上がり、ついには、5.86対1.74という差が付きました。

この原因は、介護保険制度にあるようです。平成12年度に始まった介護保険制度は、家族が主体だった高齢者の介護を、社会保障の一部としてとらえました。予想以上に利用者が増え、団塊の世代がすべて後期高齢者になる2025問題なども抱え崩壊を避けるために、介護保険の単価が抑えられました。そして出てきたのが3Kの話です。介護を仕事にする職業は、きつい・汚い・給与が安い3Kであると、報道されました。平成20年になると新3K「きつい、結婚できない、(子どもの)教育ができない」と言われ、40歳代の介護福祉士の平均給与が300万円台という報道もありました。

このような状態を知って、福祉を仕事にしようとする人が増えるでしょうか。福祉の仕事をしたいと子どもが言ったとき、止める親も少なくないでしょう。消費税を上げたとしても、介護保険に今の2倍の予算を充当し介護従事者の給与を増やさないと、日本の福祉が労働者不足で崩壊します。最近言われている3K「感謝、感動、活気」にしなければなりません。

八王子生活実習所

施設長 安田 喜人

就労支援の取り組み

きね川福祉作業所

きね川福祉作業所の就労支援の取り組みは、主に①作業支援②葛飾区就労支援センターとの連携③アフターケア（就労定着、GH（グループホーム）等の生活支援）の3つがあります。

まず、作業支援ですが所内外での作業活動（受託加工、公園清掃、自主生産）を通じ、仕事力の育成をしています。また、希望される方や必要と思われる方を対象に様々な外部実習の参加も促します。区役所実習（封緘作業等）、喫茶実習（接客、洗い作業）、自転車リサイクル実習（廃棄自転車の清掃整備）、企業実習（特例子会社等の実習）等です。環境の異なる実習となる為、緊張感を持って望む良い機会となっています。企業実習では、採用に直結する場合もあり、所内で練習を重ね、採用試験への挑戦も支援しています。参加した方の感想は『作業所と違うところは緊張したけど、やり終えて自信が付いた。』と一まわり成長した姿を見せてくれます。

次に区の就労支援センターとの連携ですが、同センター主催で区内の作業所等就労支援の施設が集



作業に集中

まる「就労支援連絡会」が月に2回開催されます。そこで、就労支援の動向について情報交換や、施設での困り事等を共有されます。また、同センターでは履歴書の書き方講座、マナー講座、模擬面接等就労に関する講座を企画・実施し、参加者は、就労に対するイメージを持ちやすくなり、動機付けにも繋がっています。

3つめのアフターケアでは、就職者の定着支援を行っています。就職後も企業と就労支援センター、作業所の三者で情報を共有し、必要に応じて職員の企業訪問、面談、作業所での振り返り実習等を行い、企業での就労が安定して継続出来るように支援しています。

また、自立生活を支援するためには区のワーカーと連携してGHを

探します。住み慣れた自宅からGHに生活の場が変わった時は、環境の変化も著しい為、精神的に不安定に陥る事がないよう、GHの職員と連携を密にして、新生活に慣れるようにサポートもします。これら、就労の取組は、利用者の方にとってもやり甲斐のある事と同時に身体的、精神的にも負担の掛かるものだと感じています。しかし、これらの挑戦で自信が付き、意思表示や自己選択を求められる経験が増え、様々な事に自ら主体的に関わる力が育てられます。今後も本人の望む生活が実現できるようにこれらも支援を続けていきます。

就労支援の取り組み

世田谷区立烏山福祉作業所

烏山福祉作業所では法人理念に基づき、利用者一人ひとりが身近な社会の中でやりがいのある仕事強みを発揮できる作業種や作業環境のあり方に着目しながら支援の実践をしています。

これまでは封入作業などの受注作業を中心に行ってききましたが、利用者の働く喜びややりがいを考え、自主生産に力を注ぎ、地域の福祉ニーズにあった事業展開しよ



ご近所の庭で収穫した柘榴

も仕事のやりがいにつながっています。

作業所の周辺には買い物等に困難を抱えている高齢の方も少なくありません。地域で一瓶のジャムを通じたつながりを、買い物や配達をサポート・事業所の一部を「お休み処」として解放するなど、働くことや作業所自体が地域に貢献するような活動を利用者と共に取り組んでいきたいと思っています。

この他には、自主生産品の和菓子づくりから発展した「野点」は東京オリンピック・パラリンピック「おもてなしプロジェクト」の一端を担えればと考えています。利用者の希望者を中心に構成された「BBB（ブラック・バード・バンド）」は、地域主催等のイベントに出演するなど、音楽表現を通し文化活動への参加につなげています。

いずれの活動において共通することは、作業所の中で仕事をするだけでなく「積極的に地域の中に出でいく」という点です。新たな出会いや機会を得ることで地域社会の中で充実した生活を送れるよう支援してまいります。

地域福祉の拠点を目指して

八王子福祉作業

地域に支えられ、慣れ親しみ育った台町を離れ、元本郷での新たな日々を過ごし始めてもう少しで1年になるうとしています。移転前から30社以上にもわたる受注作業の取引、模擬面接や就労講座も実施してくれる利用者の実習先・就労先となる企業の皆様などのかわりは続いています。

また新たな町会からは、バザー品の提供や当施設のお祭りに山車を出演させていただくなど地域の人達や団体、そして社会に作業所は支えられています。

そんな地域社会に対して就労支援としての機能だけでなく、地域住民との協働で施設を活用する地域福祉の拠点を目指して様々な取り組みを行っています。今回はそれらの取り組みについて、一部ですが紹介いたします。

まず、移転して直ぐにのぼり旗を作成・設置しています。そこには「ご近所の困った時なんでも110番 瓶のフタが外れない？ 犯罪？ 電池交換？」と記しました。設置後暫くして隣の公園利用



カフェは大盛況

者から「気分の悪そうな人がいます」と連絡があったほか、「自転車で転んでケガをしている人がいます」、「病院に行かなくてはならないのですがタクシーが事故を起こし立ち往生して困っています」等の相談があり、その都度、丁寧に対応しています。

また、作業所ではカフェの運営を開始しました。近隣からは多くの方が訪れ、ちょっとしたコミュニケーションスペースとなっています。ある高齢者夫婦のお客様が雑談の中で「足が不自由になって家の中が歩きづらなのですが、家は公園なので手すりをつけられないのです」と話されました。我々は地域包括支援センターに相談すれば良

うという方向性に定まりました。そして、自主生産品については、作業所の職員だけでなく、コンサルタントや商店会、自治会や地域団体、専門経験のあるボランティアなど様々な方を交えた戦略会議を重ねてきました。

その成果の一つに、「地産地消」をキーワードとしたジャム作りがあります。このジャム作りの特色は、ご近所の庭先で収穫されずに放置されてしまう果物の寄付を募り、応募があった果物の収穫から始まるという点です。そして、加工・包装・販売までを作業所が行います。すべての工程を利用者が行えるよう環境やサポート人員を整えました。販売会等で地域の方々の手に渡ったとき「ありがとう」と感謝の言葉をいただく体験

いアイデアを教えてください。もしそれでも何ともならなかったら、また相談に来て欲しい事をお伝えしました。そのご夫婦は何度も何度も頭を下げてお礼を言いながら帰って行かれました。他にも「このカフェが障害者の為の施設とは知らずに子供と二人でお茶を頂きに参りました。実はうちの子は○の生活介護施設に行っていたのですが、行かなくなっちゃって...」の旨のご相談でした。早速、作業所を案内し、これまでの経緯をお伺いし、実習の受け入れの話をしました。現在、企業就労の夢に向かって就労移行支援を利用なさっています。

人が集まる所には地域のニーズが見えてきます。その為に作業所では上記の他に地域の人を招いてヨガ教室やクラシックコンサート開催、八王子市内の相談支援事業所連絡会に会場貸し出しなども行っています。今後も子供食堂を始めとした子供向けの活動を計画するなど地域との繋がりは無限大で職員一同わくわくしています。

ニュース ラウンジ

相馬市第二のふるさと

プロジェクト

武蔵野児童学園

夏休みに児童16名が、東日本大震災復興支援ボランティアのため福島県相馬市へ行ってきました。児童養護施設で暮らす子どもたちが、施設を卒業した後にも訪れることができるようにと、子ども数人ずつが協力者のご家庭に泊まりながら活動する「相馬市第二のふるさとプロジェクト」という、相馬市の有志の方々によるオリジナルな企画です。



津波で何もなくなった海岸の清掃

民泊を引き受けて頂いたご家庭には本当にお世話になりました。「ママって呼んでいい？」といった素直な子どもの反応に戸惑われながらも、親身になって頂きました。また、農作業や養鶏作業で普段経験することのできない体験を通し、いのちの尊さを考えることができました。除草やゴミ回収のボランティアでは、福島の復興の現実に触れることもできました。子どもたちにとって、相馬市での体験は、被災地の方々がどんな思いで復興に向けて努力されているのか、その中で人と人との絆がどれだけ大切かということを、肌で感じる機会となりました。貴重な機会を頂いた有志の皆様には心より御礼申し上げます。

葛飾地区公開講座

9月8日に「生きにくさを抱えた障害者の現状と支援の課題」をテーマとした公開講座を開催しました。

講師は一般社団法人「生きにくさを抱えた障害者等の支援者ネットワーク」の理事である赤平守氏にお願いをいたしました。

当日は地区内の施設職員他、ネットワークの理事でもある原町



熱く語る赤平氏

成年寮の坂本氏をはじめ、同法人の職員や近隣の方など44名の参加者があり、講師が関わった事例を交えて話がすすみました。貧困や差別・障害などの状況から生まれる絶望感や無力感などのさまざまな感情と置かれた状況が孤立を生みだし、この孤立が最も大きい要因となり生きにくさの連鎖に繋がっていく背景となる。そのため、それらの人とつながるには、相手の背景や過去で否定することなく時間・場所・知覚を同じ方向から見ても共有し、相手を尊重することが出来るのが課題であると話されました。

地区内の職員にとっては通常の利用者支援を振り返る機会となり、また、他法人との交流の場ともなった講演会でした。

他法人と連携した

地域福祉

練馬福祉園

社会福祉法人改革を契機に、あちこちで地域公益活動の取組みが行われています。

練馬福祉園では、以前から同じ練馬区大泉地域で活動する他の社会福祉法人と協力して、社会参加や就労を目指す方に活動の場を提供する取組みを進めてきました。

昨年5月からは、社会福祉法人つくりつこの家に練馬福祉園の受付業務を委託しています。つくりつこの家からは、主に精神障害のある利用者とともに地域住民のメンバーが来訪して受付業務体制を運営していただきます。つくりつこの家の利用者の方にとっては、



受付での仕事ぶり

従来から行っている菓子製造などの活動とは違った仕事を体験できる外部就労訓練事業の場となっています。練馬福祉園にとっても、新たな地域の仲間を迎え入れることが良い刺激となっています。

これからも、同じ武蔵野会の事業所との連携はもちろんです。近隣地域で活動する様々な法人とも連携を深めて、より一層多様な中間的就労の場の提供に努めたいと思います。

波浮港清掃が結ぶ

交流の輪

大島恵の園

大島恵の園3グループでは、去年より「個々の強みを活かして地域参加し、地域住民との距離を縮める」といった目標を掲げ、主にボランティアを媒体とした地域貢献活動を行っています。それと共に、この目標達成の為に「地域参加」だけではなく、「地域参画」する事手段としました。

これまでも恵の園では町の歌碑清掃や落ち葉拾いなどのボランティアを行っていましたが、それらを通じた交流などは一切ありませんでした。3グループのボランティア活動では地域住民との交流が主体となるよう、地域の青年団に協力を依頼して、一緒に波浮港の



清掃の後の一コマ (波浮港)

清掃を始めました。

そのことにより利用者や地域住民との直接的な繋がりが生まれ、地域住民からも「恵の園の利用者」といった見方から「恵の園のくさん」といった個人としての認識を持つてもらえるようになり、今まで以上に過ごしやすいい地域生活を提供出来るようになりました。さらに、大島海洋国際高校ボランティア部にも声をかけたところ、今月からは3団体での事業となる予定です。

これからもさらに利用者と地域住民とのパイプ役となれるよう、様々な角度からアプローチを行い、地域福祉の輪を広げていきたいと思えます。

施設あれやこれや

練馬福祉園

7月29日、「ネリフリ」を開催しました。普段は青空の下で行うフリーマーケットですが、今回は厳しい暑さに配慮して屋内出店も取り入れられました。来場した子どもたちへのカプトムシの無料配布は好評でした。

世田谷区立世田谷福祉作業所

世田谷福祉作業所では、今年も11月3日(金)に、『わいわい祭』を開催します。今年は今施設開所50周年を迎えた年であり、新企画や特別企画もたがいま準備中です。詳しくはホームページで随時発信します。

第2大島恵の園

利用者生活棟の1階と2階を結ぶ階段の縁の改修を行いました。これまで何人かの方が転倒の際に怪我をされていたことから改修が急がれていた案件でした。縁がゴム製となり、「怪我0」を望むばかりです。

白鳥福祉館

特別支援学校のPTAから頂いたオクラの種を園芸活動の一環で6月下旬にまきました。9月中旬にオクラが黄色いきれいな花を咲かせて、10センチ以上の大きく立派な実がなり、収穫の楽しみを体験しました。

八王子心身障害者福祉センター

当センターの作業訓練は、陶芸や折紙など、楽しみながらお続けただけできるよう工夫しています。今年から「ちりめん細工」が加わり、早速かわいいペアのフクロウの出来上がり。参加された方に好評をいただきました。

すぎな愛育園

八王子市市制100周年記念イベントに、年長児による絵画作品作品を出展しました。クレヨンや絵の具で思い思いに描いた紙を貼り合わせ、大きな桜の木が完成しました。

くすのき園

安心・安全・満足の食生活は人が生きる上での基本。くすのき園では大学病院や地域の歯科医と連携、利用者個々の摂食・嚥下の状況に応じた口腔ケアや機能訓練、やわらか食や軟菜食の開発・導入を施設全体で推進します。武蔵野会の他施設の協力にも感謝です。

八王子生活実習所

そばの富士森公園で、八王子市市政100周年を記念して、全国緑化フェアが行われています。晴天の日には、利用者も出かけて公園一面にできた花壇やグラウンドの咲き揃った花を楽しんでいます。

お知らせコーナー

10月

- 1日(日) お茶亀まつり (白鳥福祉館)
わたぼうし祭り (八王子生活実習所)
- 7日(土) からフェス2017 (世田谷区立烏山福祉作業所)
かがやきまつり2017 (練馬区立北町福祉作業所)
- 14日(土) こすもすまつり (小平福祉園)
- 21日(土) ほんぼんぼん²祭り (世田谷区立烏山福祉作業所)
ふれあいまつり (練馬区立大泉町福祉園)
- 28日(土) みのり祭 (練馬福祉園)
第16回くすのき祭 (東堀切くすのき園)
- 29日(日) 演劇と音楽のフェスタ (練馬区立地域生活支援センターすてっぷ)

11月

- 3日(金) わいわい祭 (世田谷区立世田谷福祉作業所)
- 25日(土) 実践事例報告会 (大島地区)

12月

- 3日(日)～5日(火) HSJ展(八王子生活実習所)
- 16日(土) クリスマス会 (第2大島恵の園)
- 22日(金) クリスマス会 (東堀切くすのき園)
- 23日(土) クリスマス会 (武蔵野児童学園)
- 29日(金) 冬季団体帰省(往路) (大島地区)

きね川福祉作業所では、かりんと饅頭の加工、販売を始めました。10月から各種イベントでの販売を中心に進めています。この製品や販売員、販売道具の搬送のための車両について、葛飾区の福祉業務用車両購入費補助金の助成を得て購入が実現し、7月末に納車がありました。車種は軽自動車のホンダN-BOXです。同補助金

葛飾区の助成で

軽ワゴン購入

きね川福祉作業所



N-BOXワゴン、活躍が期待される

の目的は、区内の福祉業務の充実を図り、夢と誇りあるふるさとの実現に寄与するいうものです。この車両を活用し、自主生産事業をさらに発展させ、利用者の工賃向上に邁進していきます。



チーズクッキー (一袋180円)

「チーズクッキー」が、多摩プレミアムスイーツに唯一認定されました。オランダ産の高級ゴードチーズを使用したクッキーは、風味豊かに仕上がりました。お試しください。

ショーケース

自主生産品紹介

八王子福祉作業所

☎042・626・0631

オーナーシェフとプロの職人による多摩洋菓子協会審査会

リアン文京

☎03・5940・2822

ワークプレイスぶんぶんでは、パワーストーンのご寄付をいただき、今夏からアクセサリーの製作販売をしています。古くからお守りとしても親しまれていたパワーストーン。一つひとつ大きさを色合いを見ながらデザインをしています。皆さんも一つ身に付けてみてはいかがでしょうか。(1つ1,500円〜3,000円程度)



ブレスレットとストラップ

武蔵野会後援会

社会福祉法人武蔵野会が経営する25施設と8つのグループホームの利用者のために、より良い環境や施設の充実・施設の円滑な運営などを、物心両面から支える組織として、武蔵野会後援会があります。皆様のご理解とご協力により、会の拡大をはかり、法人の運営基盤の確立を応援していますので、ご協力をお願い申し上げます。

〒193-0931

東京都八王子市台町1-19-3
電話・FAX 042-626-9772